

第2章 医療費を巡る現状と課題

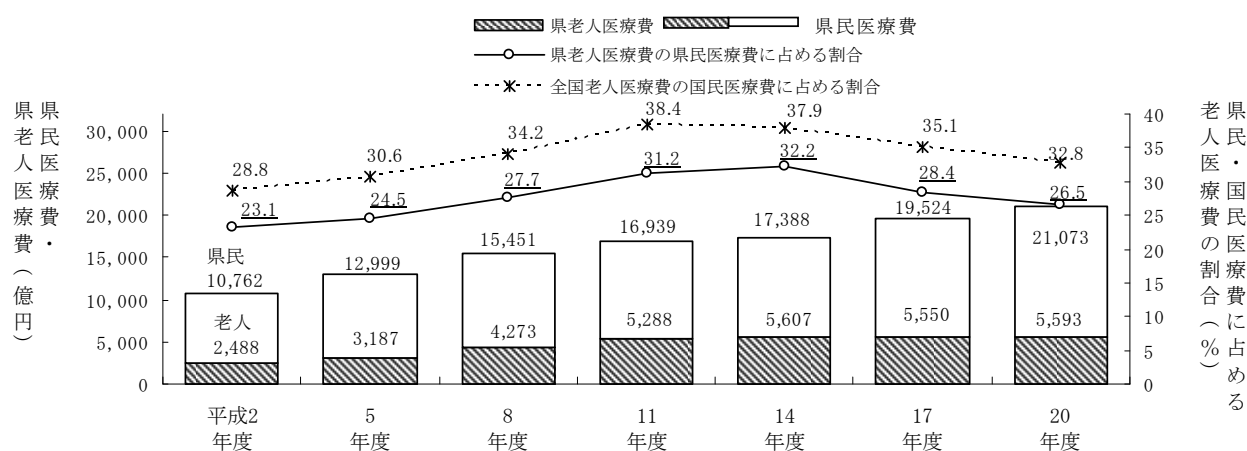
1 現状

(1) 医療費の動向

ア 神奈川県内の医療費

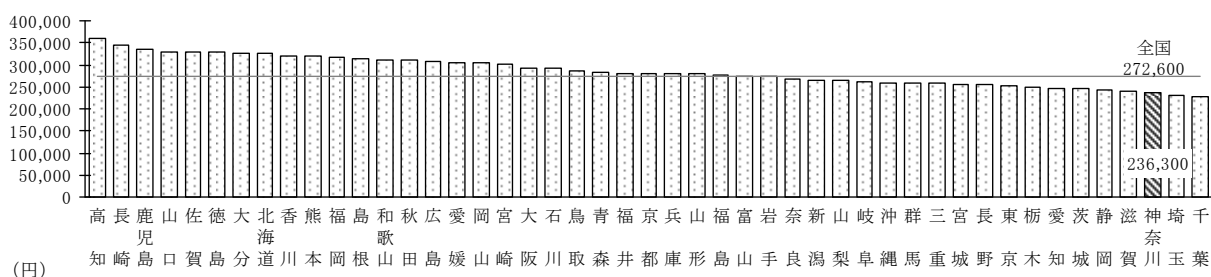
神奈川県内の老人医療費の県民医療費に占める割合は、平成2年度以降一貫して増加していましたが、平成14年度からの老人医療受給年齢の段階的引き上げによる老人医療受給対象者の減少の影響を受け、平成20年度は26.5%と減少しています。また、平成2年度以降、全国の老人医療費の国民医療費に占める割合を下回って推移しています。

図2-1 神奈川県内の県民医療費に占める老人医療費の割合の推移



出典：厚生労働省 国民医療費（各年度）
 厚生労働省 老人医療事業年報（平成2～17年度）
 厚生労働省 後期高齢者医療事業年報（平成20年度）

図2-2 一人当たり県民医療費の都道府県比較

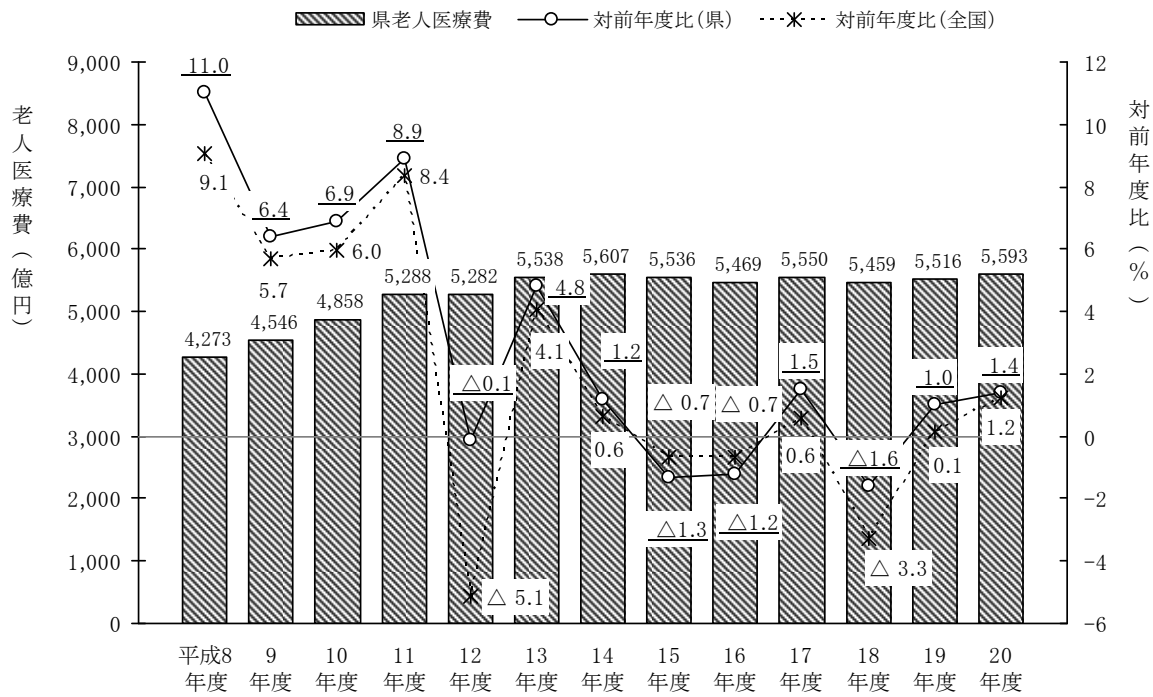


出典：厚生労働省 国民医療費（平成20年度）

イ 神奈川県老人医療費

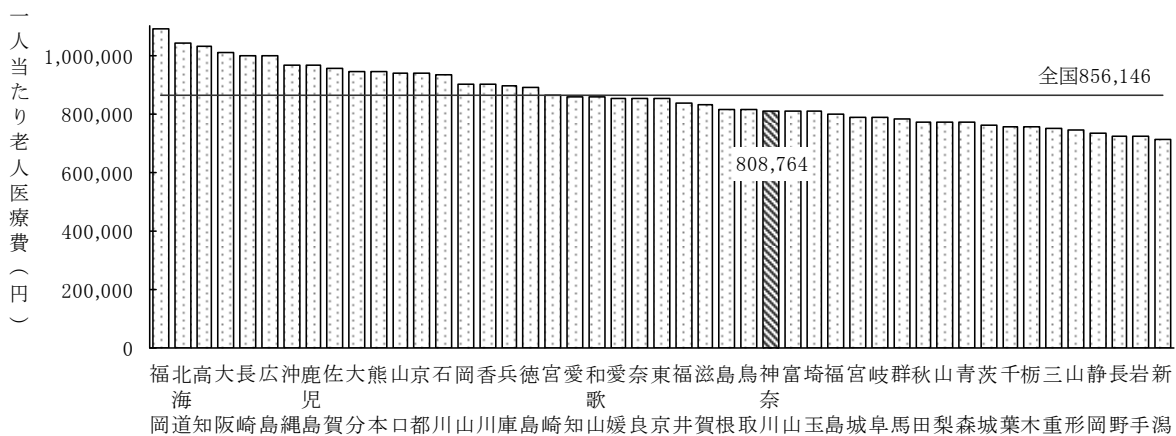
- ・ 神奈川県の平成20年度の老人医療費は5,593億円、対前年度比伸び率1.4%の増加で、全国の対前年度比伸び率1.2%を上回っています。
- ・ 神奈川県の平成20年度の一人当たり老人医療費は、80万8,764円で全国の86万5,146円を下回っており、都道府県比較で低い方から19番目となっています。

図2-3 神奈川県の老人医療費と伸び率の推移



出典：厚生労働省 老人医療事業年報（各年度）
 厚生労働省 後期高齢者医療事業年報（平成20年度）
 神奈川県医療課 老人医療費請求状況報告書（平成20年度）

図2-4 一人当たり老人医療費の都道府県比較



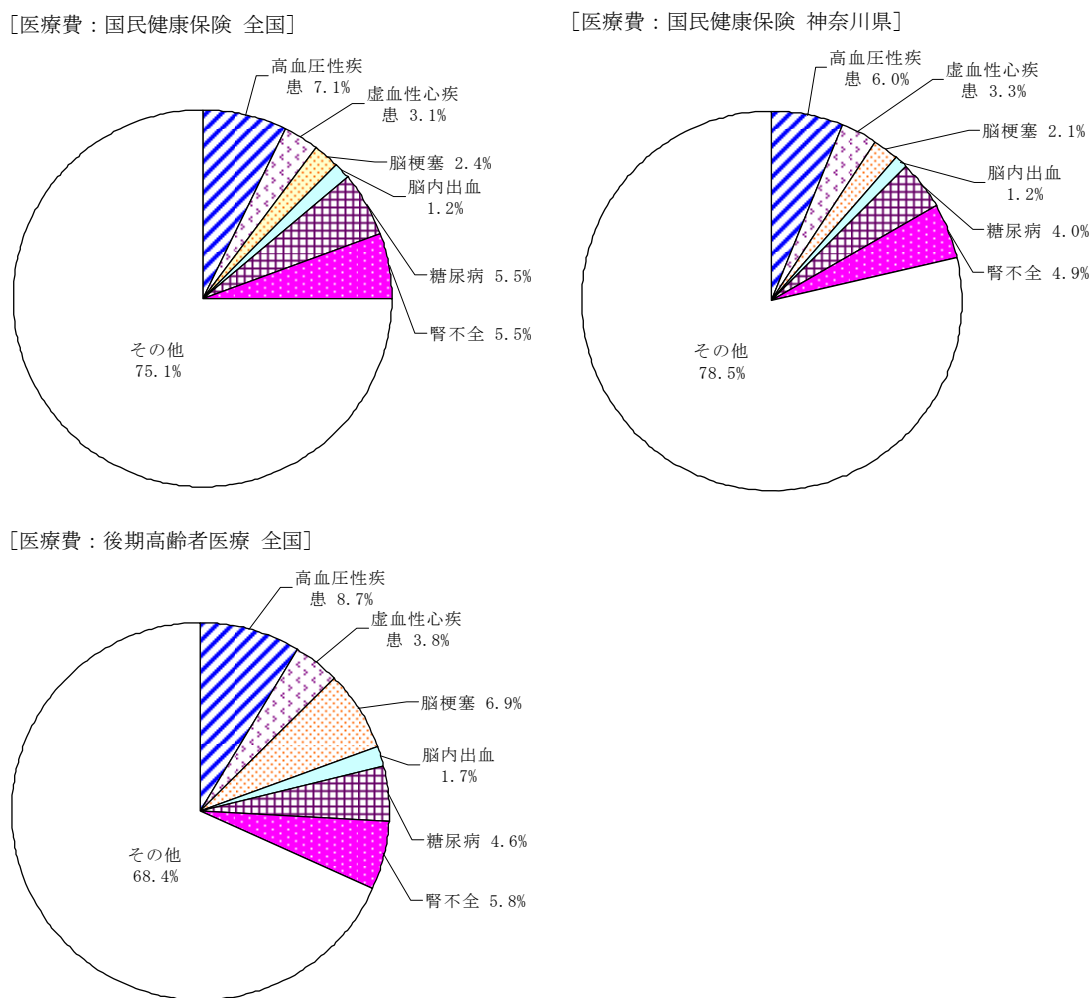
出典：厚生労働省 後期高齢者医療事業年報（平成20年度）
 神奈川県医療課 老人医療費請求状況報告書（平成20年度）

(2) 生活習慣病を巡る状況

ア 神奈川県における疾病の状況

- ・ 平成20年5月診療分の、神奈川県の国民健康保険における主な生活習慣病の医療費構成比を見ると、6生活習慣病で21.5%（全国で24.8%）を占めています。
- ・ 6生活習慣病のうち、最も割合が高いのは高血圧性疾患（6.0%）で、次に腎不全（4.9%）となっています。虚血性心疾患と脳内出血以外の4生活習慣病で、全国よりも割合が低くなっています。

図2-5 全国と神奈川県の国民健康保険及び後期高齢者医療における医療費の構成



出典：神奈川県国民健康保険団体連合会 神奈川県における疾病状況（平成20年5月）^{（※1）}
厚生労働省 医療給付実態調査報告（平成20年度）

※1 神奈川県分の出典である「神奈川県における疾病状況」は、平成20年5月診療分のレセプト全件を対象としています。これに対して、国民健康保険の全国分および後期高齢者医療の出典である「医療給付実態調査報告」（厚生労働省）は、平成20年度分（平成20年4月～平成21年3月診療が対象）として各保険者から提出されたレセプトのうち疾病コードの記載があるものを対象に集計したものです。神奈川県と全国の比較においては、5月単月データと年度データから算出した月平均値という違い、集計対象範囲の違い等がある点にご留意ください。

イ 生活習慣病の一人当たり費用額

神奈川県国民健康保険における生活習慣病の一人当たり医療費をみると、平成18年5月分の70歳～74歳では10,180円で、平成21年5月分の70歳～74歳の8,587円と比べると1,593円（15.6%）減少しています。

表2-1 神奈川県国民健康保険における主な生活習慣病の一人当たり医療費
[年齢階層別]

平成18年5月 (円)

	～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳～
高血圧性疾患	39	364	1,039	1,630	2,250	3,147	4,547
虚血性心疾患	14	107	400	742	1,087	1,499	2,086
脳梗塞	9	57	214	482	794	1,419	3,414
脳内出血	11	107	328	290	317	465	724
糖尿病	69	378	813	1,110	1,390	1,817	1,932
腎不全	103	681	1,342	1,491	1,593	1,833	1,989
生活習慣病合計	245	1,694	4,136	5,745	7,431	10,180	14,692
全疾病合計	6,624	10,869	16,557	20,945	25,811	35,770	49,304

平成21年5月 (円)

	～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳
高血圧性疾患	23	277	692	1,711	2,571
虚血性心疾患	12	157	318	880	1,480
脳梗塞	12	99	186	596	1,163
脳内出血	6	115	238	397	444
糖尿病	56	325	602	1,107	1,525
腎不全	87	723	1,230	1,612	1,404
生活習慣病合計	196	1,696	3,266	6,303	8,587
全疾病合計	6,107	11,450	13,909	23,971	33,297

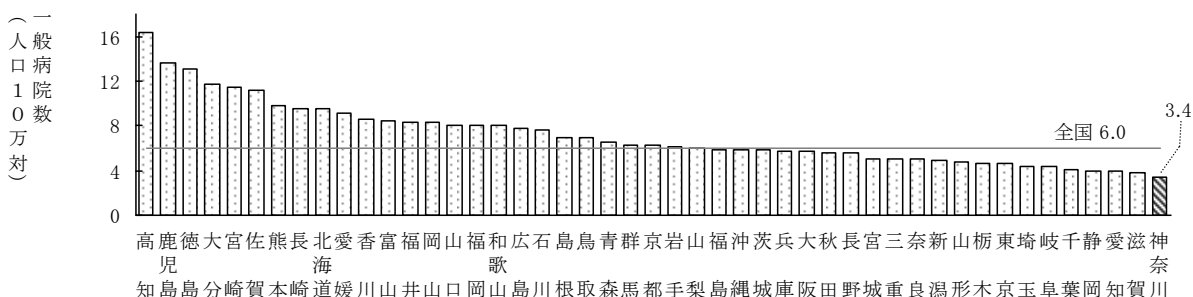
出典：厚生労働省 医療費適正化計画作成支援ツール：疾病特性・地域特性分析編
（神奈川県国民健康保険団体連合会レセプト 平成18年5月診療分）
神奈川県国民健康保険団体連合会 神奈川県における疾病状況（平成21年5月）

(3) 医療の提供体制を巡る状況

ア 医療施設数の状況

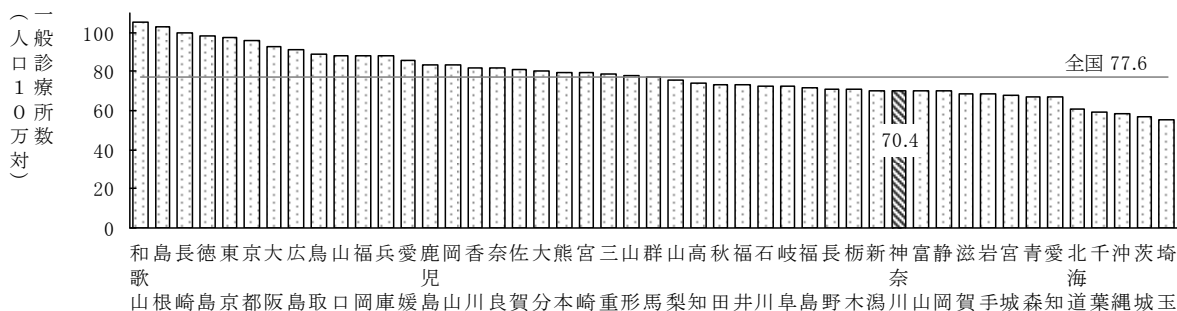
- ・ 平成20年の人口10万人当たりの医療施設数を都道府県で比較すると、一般病院は神奈川県が3.4施設に対し全国が6.0施設で、神奈川県が最も少なくなっています。
- ・ 一般診療所は少ない方から13番目（神奈川県70.4施設、全国77.6施設）で、歯科診療所は多い方から7番目（神奈川県53.8施設、全国53.1施設）となっています。

図2-6 一般病院数（人口10万人当たり）〔都道府県別〕



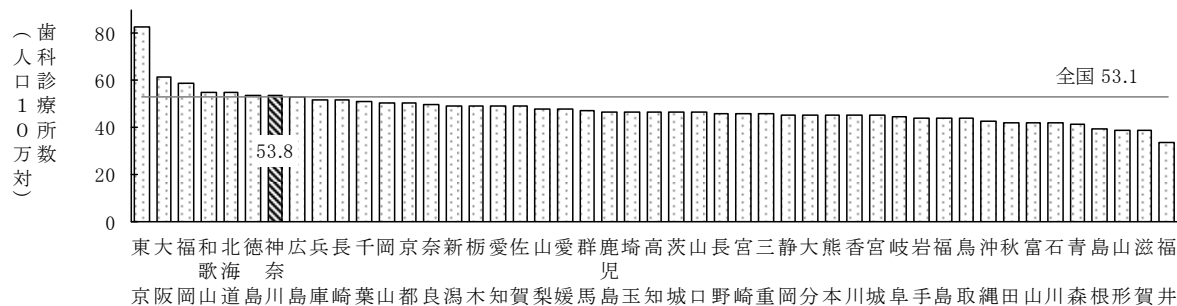
出典：厚生労働省 医療施設調査（平成20年）

図2-7 一般診療所数（人口10万人当たり）〔都道府県別〕



出典：厚生労働省 医療施設調査（平成20年）

図2-8 歯科診療所数（人口10万人当たり）〔都道府県別〕

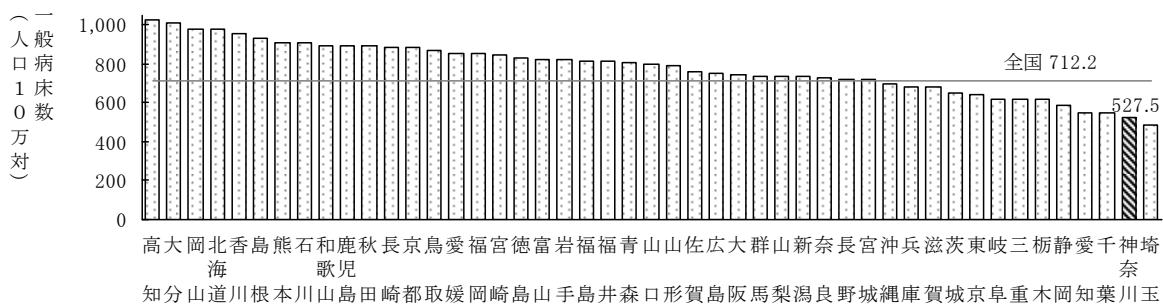


出典：厚生労働省 医療施設調査（平成20年）

イ 病床数の状況

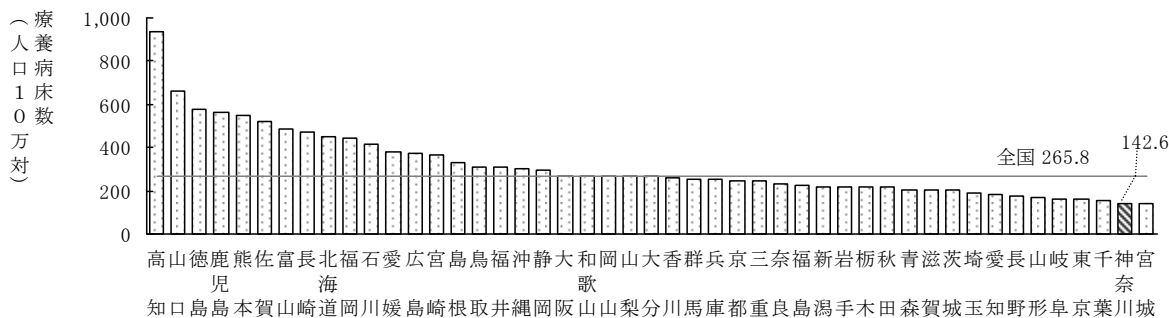
- ・ 平成20年の人口10万人当たりの病床数を都道府県で比較すると、精神病床は神奈川県が157.6床に対し全国が273.6床で、神奈川県が最も少なくなっています。
- ・ 療養病床は、神奈川県が142.6床に対し、全国が265.8床、一般病床は神奈川県が527.5床に対し、全国が712.2床で、どちらも神奈川県は少ない方から2番目となっています。

図2-9 一般病床数（人口10万人当たり）〔都道府県別〕



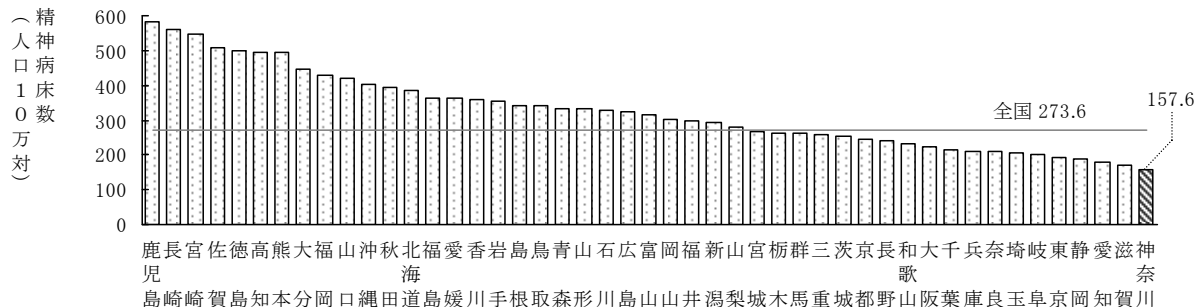
出典：厚生労働省 医療施設調査（平成20年）

図2-10 療養病床数（人口10万人当たり）〔都道府県別〕



出典：厚生労働省 医療施設調査（平成20年）

図2-11 精神病床数（人口10万人当たり）〔都道府県別〕



出典：厚生労働省 医療施設調査（平成20年）

2 計画策定時と比較した課題の検証

(1) 健康の保持の推進

神奈川県の一⼈当たり医療費は全国値と比べて低く、また、高齢化の進展に伴い生活習慣病に係る総患者数は増加傾向となっているが、生活習慣病を巡る状況については、計画策定時と比べて特に大きな変化は見られません。

(2) 効率的な医療の提供

神奈川県における平均在院日数の状況は、一般病床で16.3日と全国で最も短く、療養病床や精神病床の平均在院日数も短くなっており、全病床での全国的な位置づけも全国で2番目となり、計画策定時（平成17年度）の3番目と比べて短縮化が進んでいます。